

論壇

人間の仕事が奪われる

AI（人工知能）やロボットなどが私たちの仕事を奪っていく。店舗のレジ周り、もろもろの事務作業、工場での仕事などで、機械やロボットが活躍している。AIの進歩のスピードを考えると、近い将来は半分以上の仕事が人間から機械にシフトすると予言する専門家もいる。

機械が人間の仕事を奪うようになれば、どのようなことが起こるのか。歴史をひもとけば、参考になることがある。18世紀中頃から19世紀にかけて、英国で産業革命が起きた。人力で行って

伊藤 元重 学習院大教授（国際経済学）

いた物の運搬などが、蒸気機関に置き換わった。人の手仕事で行われていた織物生産も自動織機に置き換わっていった。人力から機械への大きな移行が起こったのだ。

この時期のブルーワーカーの実賃金を調べた研究がある。それによると、1755年から180

技術革新と賃金

2年までのおおよそ50年間、英国のブルーワーカーの実賃金は下が

り続けたという。1802年での動きは反転するが、実賃金が1755年水準まで戻るのは1820年である。賃金が下がり続け

その間、英国の経済は産業革命のおかげで成長を続けている。その恩恵は資本家や技能労働者に行き、単純労働のブルーワーカーは65年近く苦しむことになる。だから、自分たちの仕事を奪った機械

はけしからんと、機械を壊すラッダイト運動が起きた。富が資本家に集中するのはけしからんという

ことで、マルクスの主張が説得力を持つことになる。

いま起きている情報革命が当時の産業革命と同じ規模で労働者へ影響を及ぼすのか、いまの段階では分からない。ただ、蒸気機関や自動織機は肉体労働者の仕事を奪ったが、AIはもっと多くの人の

仕事を奪うことになるかもしれない。技術革新が格差の拡大を生み出し、それが社会の不安定化につながることを危惧する専門家も多い。

AI使いこなす教育を

ただ、産業革命の時も、途中から賃金の上昇が始まり、最終的には機械の普及のおかげで多くの労働者がより豊かになったことも事実だ。機械のおかげで、多くの

人たちが牛馬のような重労働から解放された。機械に仕事を奪われたのは不幸だったが、機械をうまく使いこなせばより高度な仕事ができる。生活も楽になる。

いま進行しつつある技術革新も、多くの人から仕事を奪っていく。

くだらう。そうした状態を放置してはいけない。ただ、AIやロボットを壊すというラッダイト運動のようなことをしても、技術革新が止まるわけでもない。AIやロボットに使われるのではなく、これらを使いこなしてより高度な生活を享受できるような技能を身に付ける必要がある。

ここに技能習得や教育の重要性がある。そうした教育経験が提供されることは社会の責任でもある。政府はデジタル革命を経済成長の起爆剤としてしようとしている。

それは結構だが、それで多くの労働者の仕事がAIに奪われるのでは困る。より多くの人がAIを使いこなせるようになる教育機会を整備することが強く求められる。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。